

信州F・POWERプロジェクトが目指す木材需給構造

林業経営基盤づくりの推進

2015年稼働 征矢野建材(株)

※数量は当初計画量

新設木材加工施設(床材)

(県内最大規模)

間伐材等: 10万 m^3

県産材製品の供給:
2万5千 m^3

製材端材: 7万5千 m^3

2020年稼働

リヤ/ラットパワー(株)

新設木質バイオマス発電施設

建築用材等に利用不可能な間伐材等: 10万5千 m^3

事業主体の施設規模に対する考え方

- 集中型木材加工施設
 - ・ 木材製品の国際市場において、品質・価格で競争力を持つための生産規模を考慮して決定
 - ← 木材は、国際流通商品である。
- 木質バイオマス発電施設
 - ・ 発電施設を単独で整備するのではなく、集中型木材加工施設から発生する製材端材を有効に活用するための施設として適正規模を選定

長野県の森林資源を、製材・加工・利用・燃焼の「多段階」で活用する仕組みづくり